

## 神保町リデザインに取り組む視点

- ① **神保町の視点**：古書店の継続を可能とする建物・エリアのリノベーション、古書店を核としながら多様な用途の複合化と歩行環境の整備による来街目的の強化、回遊性・滞在性の強化・向上 等
- ② **周辺地域連携の視点**：各地域（界隈）の回遊性、移動快適性を高めるネットワークの強化、ネットワーク経路におけるプレイスメイキング原則、情報発信や案内サイン等のシステムの充実 等
- ③ **ウォークアブルまちづくりの視点**：「滞留」と「回遊」の視点から街の資源を発見・整備・創出し、界隈性を高めることによる、人々のQOLの向上、地域への愛着、つながりの強化、出会い・交流の創出 等
- ④ **制度アップデートの視点**：LQCアプローチ、右肩上がり前提としない再生事業支援・税制（リノベーション支援、個人事業主等の事業継続・建物維持の支援・相続税減免、歴史文化まちづくり投資減税等） 等



街かどに緑と座れる場所をセットで設える（丸の内）



商店街にデザインされたベンチを設置（横浜元町）



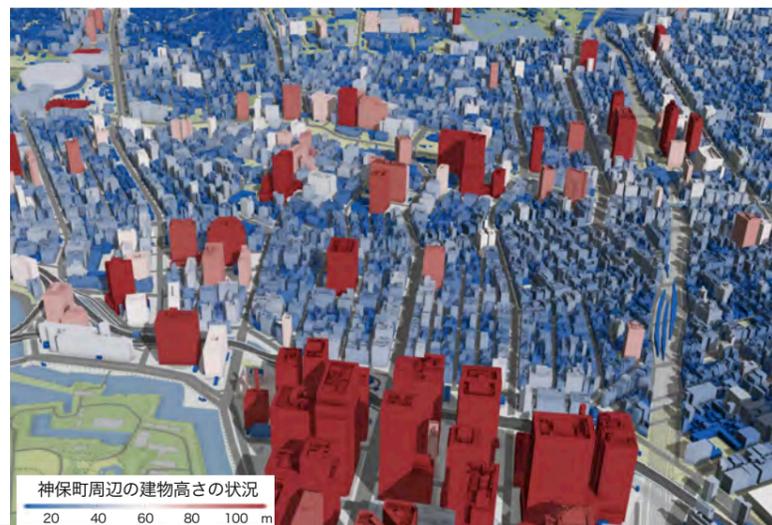
小さなコーヒー店と並んで庇とベンチを用意（前橋）

## リデザイン・プロジェクトの検討イメージ

- ① **広域ストリートの魅力向上と明示化**：路面店の付加価値向上、路地・低層雑居ビルの活用、回遊性の確保、地下利用の促進、水辺へのアクセス、周辺文化資源地域との連結、モデル的南北軸と東西軸のデザイン（回遊性と滞留性を高めるための細やかな空間整備：緑、ファニチャー、庇・ロτζア、通り抜け空間等）  
\* ストリート整備モデル具体案（Aチーム）
- ② **リノベーションと建て替えを統合した街区形成**：デジタル知識体験をはじめとする新しいコンテンツが融合した店舗・施設、老朽化・陳腐化等に対応した店舗・建物の多様な更新、モデル的街区再編・更新のデザイン、コンテンツも含めた建物のリノベーション  
\* 神保町特定街区形成案（Bチーム）
- ③ **人が集い、学び、楽しむ、ジモト民の場の創造**：店舗の複合化（小規模カフェ等の併設）、時間帯による利用形態の多様化（夜間利用の促進）、中規模広場の確保、新しい知識ビジネス創出のインキュベーションリズムの展開、新しい夜遊びの発見  
\* 訴求力と魅力のある街のコンテンツやアクティビティの充実とそこに主体的に関わる人材の発掘・育成
- ④ **リデザインのロードマップイメージ**：大まかには次のようなフェーズを想定する：（I）リデザインの方向性の仮設・共有、機運の醸成、（II）LQCアプローチによる具体的な空間改変等のトライアル、（III）地道な制度設計と行政協議、（IV）リノベ型再開発等のプロジェクトの展開。それぞれ相互に重なり合う部分がある。

### 【参考】神保町周辺の建物の粒度感と高さ感（現況のイメージ）

- ・ 超高層ビルが林立する大手町とは対照的に、神田側は、一ツ橋・御茶ノ水駅周辺・秋葉原駅周辺を除き、全体的に青色系＝概ね高さ40m程度以下の建物が広く分布しており、敷地も比較的小さなものが中心である。
- ・ 神保町では拡幅整備を待つ白山通り沿いに濃い青色（概ね高さ20m程度以下）の建物が散見される。
- ・ 神保町及び周辺の地区特性を踏まえた連携の中で神保町らしさを維持する更新の仕組み等を検討していくことが期待される。



出典：PLATEAU

# 神保町リデザイン・ビジョン

2026年1月版

## はじめに：神保町リデザイン・ビジョンの必要性

### 神保町に対する社会的関心の高まりを東京の宝として活用する必要がある

- ・ 世界的に見て類例のないユニークな界隈である神保町が、国際観光の活性化等に伴い改めて発見・注目されている。
- ・ この好機に、東京の魅力や国際競争力を文化・交流の面から支える東京の宝として、神保町を街ごと活用していくべきである。

### 神保町らしさの存続に関わる差し迫った課題への対応が急務である

- ・ 「紙の本」の位置づけの変化や、デジタル・コンテンツの進展への対応が求められる。
- ・ 建物の老朽化への対応や事業の承継が必要だが、その実行を支える仕組み等が不十分である。
- ・ 神保町らしさを維持したエリアの空間的・機能的な更新は、神保町の自助努力だけでは難しい。
- ・ 生業の継続を与条件として組み込む再開発の仕組み等の支援措置・制度を創出する必要がある。

### 神保町らしさの維持と活用に向けて、神保町のリデザインを推進するためのビジョンを描き共有して具体的なアクションを始めることが重要である

- ・ 神保町の魅力はひとたび失われたら取り戻すことが困難であり、神保町らしさを維持しながら街の更新を進めていくことが求められている。
- ・ 生業の継続を支援しながら都市空間（建物とパブリックスペース）を更新・改善していく神保町のリデザインを、そのための仕組みの構築と同時並行的に進めていく必要がある。
- ・ 神保町のリデザインを方向づけるビジョンを描き、共有し、周辺との連携を図りながらまちづくりアクションを重ねていくことが重要である。

## 神保町リデザインの基本理念・目標・将来像

### 基本理念

神保町らしさを拡充しながら持続可能な街の未来を拓く  
（日本の新しい都市再生モデルの提示）

### 目標

「本の街」から「解放系の知の交差点」へ - Beyond ARTS Jimbocho -  
：従来のイメージを超え、街の広がりを超え、みんなの期待を超えていく神保町へ

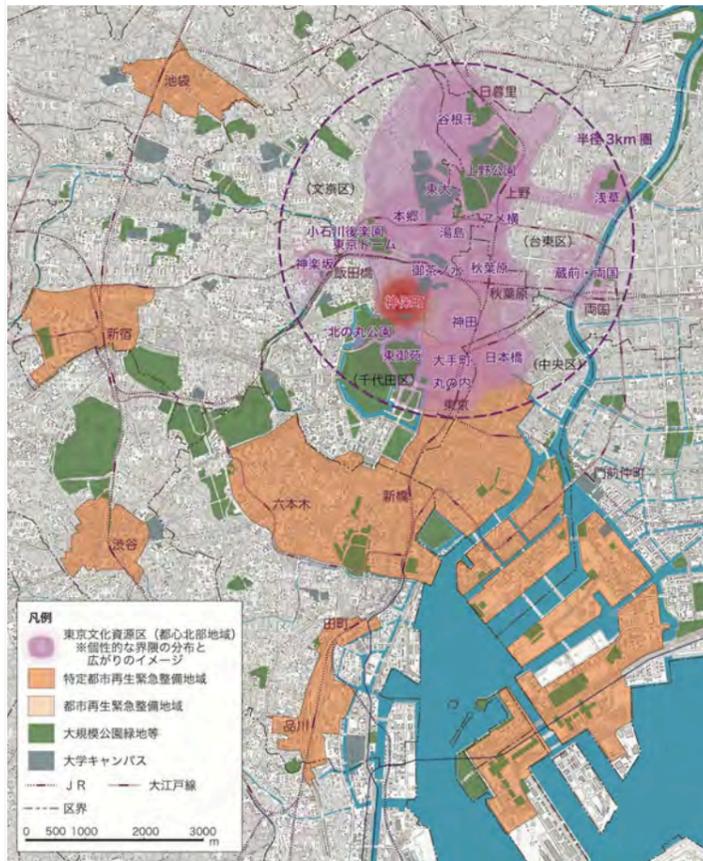
### 将来像

- ① **知恵の探究ができる街**（あらゆる知識を取り込み、融合し、発信する）  
：本を売る街から知を体験・体得できる街への転換＝知の交差点
- ② **多様な文化資源を愉しむ街**（街での愉しみ方・時間の過ごし方を知る）  
：訪れる目的を多様に揃えたとともに、ただ歩いて回るだけでも魅力的な街を構築
- ③ **職住遊学が一体化し人と知と縁が育つ街**（①と②ができるジモト民を育てる）  
：知恵がベースの生活環境、訪れる人々のウェルビーイングを高める街を形成



## 東京の都市再生戦略：経済活性化と文化資源活用の両輪で展開

- 東京の北東部には近世・近代・現代と、時代をまたぐ文化資源が集積している。このエリアは、大規模な開発から免れることで、東京における文化資源の宝庫としての価値を維持し続けており、文化、環境、観光等の様々な視点から街としての新たな可能性が注目されている。
- 都市再生特区のような経済活性化による競争力強化と、都心北東部に広く分布する文化資源の活用による魅力向上を両輪として、国際的に訴求力のある東京の都市再生戦略を描く。



### 神保町周辺の文化資源・シーンの豊かさ

- 街に残る歴史的経緯・背景：大学設立と書店・古書店、震災復興・戦後復興と交通網整備
- 明治初期からの多様な文化資源の蓄積と発展：大学、宗教施設、書籍、映画、芝居、音楽、アート、ギャラリー、飲食、スポーツ、医療・健康 等
- 街歩きの魅力：雑居ビル、小規模ビル、路面店、路地、交流の場となる小さな店舗・スペース



## 神保町デザイン・ビジョン — 界隈の個性を際立たせながらウォークラブルにつなぐ —

- 神保町を中心として周辺に広がる多様な個性や文化資源の魅力を活かしながら、それらをつなぎ、街を歩いて楽しみ、新たな発見や交流に満ちたエリアとするよう、ハード／ソフトの両面にわたり細やかなリデザインを推進する。
- ① 地域交通上の重要な道路を**地域連携軸**とし、円滑な車両交通を確保しながらウォークラブルを支える骨格として沿道土地利用と一体的に整備
- ② 街を歩いて楽しむための**回遊軸**を位置づけ、沿道土地利用と緊密な関係を築きながら、回遊・滞留・交流を支える基盤として強化
- ③ **個性的な界隈**の魅力をそれぞれに高め、界隈間の連携や相乗効果を図りながら神保町周辺一体の魅力強化

